



燕村七部集

下





岸田  
藏書







ていふうをうあうんこととまもむ其操りたることありき  
き裁するもちもくし一松鷺鷥の可憐金針靴  
度とわんせん其向くはる系鄧林乃良材  
つよの海濱よは乃とをとるし其操りあり  
にふぬもふりやうせつあそのつよのやうに  
うり乃開乃乃ぬもろくわんぬあやうに  
とをともむとくぬう序とてとて

西中之秋

平安院通立機

後あり、三

春之部

等持院寓在

えんらん草花のま島 名彼  
うぬのまよ遊物まよはり代のみ 栄阿  
人雪乃ものぬりまやの乃とま 九圭  
まよあわて二口の門乃雪ぐれ 柳女  
おのしりてまよへたりぬまらうち 月居  
何者のつよ伊勢のゆりや門伝 白姑  
幸終りてまよはれぬぬのまら 子東  
雪乃 離落 障子にまよるまら乃色 万容  
うぐひすのまらうちまよあうち 燕村

うらひのめきやうの梅の島 道立  
きりやのつゆかふもきりや 几董  
うらひのつゆかふのつゆかふのをみゆ 蓼太  
里路のつゆかふのつゆかふの 名波

歌考あ春色

うらのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 伝華 霞東  
とらふもけのつゆかふのつゆかふ 一鼠  
耕りやのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 蕪村  
耕りやのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 大魯  
なくさる裸のつゆかふのつゆかふのつゆかふ 岸山  
うらのつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 移竹

後ろけ 110

中にもせはうのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 暁臺  
院のつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 九湖  
このつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 大石 士喬

画賛

来半のつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 几董  
ハのつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 正石 正石  
つゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 梅  
つゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 芹董  
つゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 二柳  
あ遠のつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 移竹  
白鳥のつゆかふのつゆかふのつゆかふのつゆかふ 正石 羅川

のたまき啼て寂き蛙うね十六志慶  
不と飛くくわの持さぬ蛙うね七三是道  
橋乃交のねりりく餅きか七三賀瑞  
松風もまられぬのく暖き一三福丸  
表町中をうんまう田子賣一三文雅  
小昼竹まらう中乃鶴乃存五周  
あふとまらし

町ありく鹿乃春き一孫有 雷夫  
よとのよも傾く月や連所所 名伎  
天とまらに休えの芝みきりり 田福  
裁賣乃よまぬとね中まらぬのふ キ董

後あけ 五

まられ中ちまらうくく里乃お大家足  
けらうのー松のまらる場乃堀七三車蟻  
信風中夕月うらく小館飛十六弄我  
柔いつくし方をとら門の小館及 芙蓉花  
人のまらに習うまらぬ

梅乃まらぬぬまらりまら乃水 無腸  
春日晩生  
日へのまらし帰らうくくまらまら水 キ董  
梅肌もある群れうらり家 方客  
田螺うまき童う扇焼かて 白砧  
小籠乃酒の平つれまらよ 龜郷

九湖 小舟を催もよるの月  
 竹裡 蛭刺音とあく門のせうら  
 路曳 野昇にしろ派くねてつせま  
 春蛙 しろ地よりなりける傾城の垂  
 左纏 物殿の殿とけんといふる元か  
 湖 神谷乃布り一和御一  
 客 しろら啼度しきくこを渡  
 砧 世らこらむき後日のみこれ  
 々 傳くま一平代の公に太刀ま  
 董 せうりもわらる奇しむ  
 瓢子 道つれの侍傳とくるむの陰

後六

優才 温泉効をくつきカハ  
 嵐甲 出替りの名所も月け尾をり  
 石友 轍一産△之賣乃町  
 雷夫 町人と詣らぬうさるる  
 曳 解くくトアの奴後々ん  
 裡 漸くそそきりの林奥さるし  
 纏 夕をたもく本林乃原風  
 蛙 多物も世こくる種の匠原を  
 客 そそく憂ふとふ幸子産書  
 砧 余は子岡砧も雪く松と  
 々 色ききしる物色乃月



里ノ一ちノ根ト入ルルノみハナリ  
 車ニ乗リて院ノ下ニ立テ  
 夜ノつゞけノ汗モあつてに招カ  
 梳ノ毛髪乃眉ノ下ノ毛  
 時ヨリあるニ階ノ下ノ夕尾  
 本質ハおきつて凡クもさつて  
 伸ルルハミ徳南ノのさつて  
 粉ノカキミキルハむらきみ  
 此ノつゞけノ髪ノ子ノさつて  
 くる團ノ下ノ髪乃洗マ  
 董 文 湖 才 裡 叟 砧 客 夫

二月十日の美のあつて

塩乃ろろれタリハつて  
 竹葉ノさつて復ルルハのさつて  
 月乃又ハつてハつてハつて  
 魚船ノさつてハつてハつて  
 芒刈ノさつてハつてハつて  
 園目ノさつてハつてハつて  
 紀伊ノさつてハつてハつて  
 冬ノ車ノ門ノさつてハつて  
 月居 キ董 月 キ 月 キ

表楓のうらぐらぐら旭のうらぐらぐら  
 画工とともくくくくくくくくくく  
 夏飯の老のむらむらむらむらむら  
 そよよ井と飯月乃きききききき  
 垣ちちちちちちちちちちちちちち  
 永キ味乃井思あうううううう  
 花是るそちちちちちちちちちち  
 雜多けけけけけけけけけけけけけ  
 兄乃傳りまきりまきりまきりまきり  
 馬堀の表伝るひんあさ  
 浜きと伝るまきりまきりまきり

アト何れも机乃きききききき月  
 曉けくくくくくくくくくくくくく  
 燈あを拾ふ飯後の浦位  
 一人乃母おきひくくくくくく  
 公事ふ給しと雜も飯も  
 冷酒とあけけけけけけけけけけ  
 やりてうらぐらぐら月乃きききき  
 十にくくくくくくくくくくくく  
 是を起ちるふひ乃使もくくく  
 雪もくくくくくくくくくくくく  
 二あうらぐらぐらきききききき

獨居戸獨更り窓の下月  
むしと紐とく白氏文集  
らくろく小町う輝のふととん  
湧芽うそくふま乃ま枕

○  
家ちの種くあまの夕ま  
得は乃まきまるとま白小 邦任 白鳥 蝶夢

春の  
古まより陽まこと踏山流小 大魯  
あまのまふまも更りまま小 十六 白堂  
焼もまままのまま小 牛董

けららく温整うけくま小 樹鳳  
移るん舎市と野の種代市に入 守一  
細入ぬ海の風くく 彼岸小 霞夫  
十中一班女う围乃香うわ 龜友  
傾場も廓まりの莖うま 竹裡  
火の強て風のそくく焼中か 長圃  
わりあゆや燈下棋邊入秋花 御風  
窓乃月垂まると猫乃新あし 石友  
轉りまの音くま猫 五 几董  
重三  
家くや雛まもつ小豆飯 移竹

くみ歌や志のぬあつ娘の子  
あつ山みり日あすはぬし  
山あつ丹波の風はつた  
鬼つねしとんによろり船まゆ  
花とんごのねり雲つげん  
屋下はせ枝も中ふ乃山

暮春

おそろくまはれくまそ後りあふ  
にわりのやうりふくまもわん  
りま中探者と恨む奇のそ  
ゆまのまうりうわては春なり

左緒

嵐甲

雅因

太祇

移竹

夙律

樽良

我則

蕪村

青蘿

後り十

中やま旅せしる一我は  
園のへに積まうひまの名は  
うらやまうさめまらや信る  
母波市このふり  
くまの向テ流者賣女藤白し  
るる柳中酒賣家のとくれ貞  
と白く躰端や標のまは  
アし笑ぬ土うさき岩の圃  
葉のむにもの通つてふちの  
ふれをやうのふれをよ山

鷺喬

几董

葵水

自笑

牛董

正白

集喬

士巧

太祇

葉乃も中月いふあり日西  
 山平まきり 湾うきもり  
 流し舟酒懐きくまふて  
 岸園うしとけあし点も  
 膝長とこくうあつち和院  
 義着くいつる雪乃羽か  
 仁あるとふねり里と銀うら  
 あふよん乃馬登きけり  
 ふきんつる草露つれとあつん  
 ぬいぬあつちやうて流しも  
 燕村 樗良 几董 村良 董村 良村 董村 良村 董村

尺ハの響なくるりともさひあて  
 織とくくし公乃 觸  
 早橋のくせえ橋も得るるこ  
 天丸のつくあきとら乃杖  
 門あ乃舟にた出れ力の音  
 才みの停ねいふた衣きて  
 瓦の中窓平の流しゆあひぬ  
 平舞のたのすよ乃もあつち  
 水よりやあはれの浦なつち  
 そのかり乃道なりんよせつ  
 古々のまふよくささつち  
 董良村 董良村 董良村 董良村 董良村 董良村 董良村

さう大將乃の歌よめ 刀に  
酒一斗牡丹乃の園よめ 花より  
日ハ赫々として佳きとて 丁も  
おどろもや 菅院 乃とを 出ん  
豆腐へ 飽く 冷く ぬる

村良 董村 良

夏之部

都のよめ 都乃の歌よめ  
月よき 山女 乃の 乃の  
ふらや 門と 出て けり 子規

長安万戸子規一聲

蕪村 士朗 坡反

わきまの 南のりふ 都一 弟ら 曉堂

詩仙もれ 雲

けしきも 鴨行 細ぬら 子規  
おとた 老乃 化 振 中 更 衣  
あつた ぬら 乃 佳 乃 乃 乃 乃  
ふちの 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
ぬら 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
園 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
おとた 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
ふの 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃  
乃の 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

几董 太祇 可重 正名 丰董 士川 双魚 月居 五雲



旅行

蚊やり大かきとる者とる後れり  
 路曳  
 等りしうかきとる遠入の蚊やりの  
 普立  
 かかり大の蚊やりのあつさうれ  
 菅鳥  
 けかり大か勤とるもの園ふる  
 五晴  
 脊戸へ虫とる門の蚊のあつさ  
 正名  
端午  
 流る子と太刀とるか合さるる日  
 大魯  
 湖とるよ横つた乃横つた  
 南雅  
 とくしとる乃とるあさよとるちや  
 袖  
 月とるよとるたつとるたつ舟  
 鳴鳳  
 帆籍乃無き消とる子とる  
 李康

ともちとる飛あつさうとるたつ舟  
 多少  
 川風やたつたつとるよとるよ  
 キ董

任言作田桂

早乙女やとるよとる神乃とるよ  
 東瓦  
 子乙女やとるよとる小田のよとるよ  
 飄子  
 あつさうとるよとるよとる社とるよ  
 志慶

夕殿考飛思信

ありとるよとるよとるよとるよ  
 キ董  
 流るよとるよとるよとるよとるよ  
 月溪  
 新とるよとるよとるよとるよ  
 李溪  
 舟とるよとるよとるよとるよ  
 車蟻





ひきとほせられた草乃とむの法  
 味りあつりの月ありやうし  
 狼乃旅人あやかしに杖更で  
 弓矢とよむむよるたあま  
 花びらを危乃あめあうらま  
 奥あつけるけあしあし  
 迷き口を歌きしあしあ  
 声け使りあつたあしあ  
 別法乃酒よ焼のゆくらん  
 燭とてしつたあしあ  
 赤い尻羽るらあしあ乃憲  
 池 池 池 池 池 池 池 池

赤の  
 十六

多態ふらあきやあしあ  
 桑叶の秋の秋もあしあ  
 うれあしあ 橋と籠し  
 塔跡乃あしあ門の夕月あ  
 棺と送る船や乃あしあ  
 馬勢あしあ曲あしあ  
 伝泉乃あしああしあ  
 限あしああしああしあ  
 事あしああしああしあ  
 按あしああしああしあ  
 利根あしああしああしあ  
 池 池 池 池 池 池 池 池

ふつしきりおのめはろて  
書 居り 井む 夢中 のよき 華

あやこつ下よの建くる異うね 田福

肌うね女の罪乃あつさか 田女

あつ早し油しり木の呻一書 吳々

異きり小飽し 菖子の黄うね 定誰

あつしのおれ 膝あつてり異うね 几圭

こつあつとあつ 井遠し 蝉のよき 几董

夏川や流るもの 異うね 宋阿

川 川了 鳥 帽子 こと 井 枯り 既白

飽足らぬ女 ころや 忠 拂 響香

筆のあつらふころや 井 拂 名波

施米らるりと違へるやとみ 俵 自笑

深しきや 登々し 川 小 月 の 影 美角

春 深 かな 念 佛 ころ なる も 左 彦

うのしと 南 夢 に 鱒 や 新 涼 名 波

深し かな や し ぶ 春 不 務 て 枕 枕 雨 谷

下し かな や 藤 けり ちる 口 江 新 朗 樽 良

白 夢 かな 州 夢 ちと ね む 村 花 蕪 村

夕 夢 かな 下 京 かな の 夢 ち 不 附 鳳

白 雨 かな 後 夢 かな 乃 大 書 院 太 抵

白面一跡もあしそこの峰  
旅のそと一知らんにはやまは行家  
涌くる日毎乃ころや雪の峯  
西遠一入りふらふ雲乃るも  
そと峯一高きそとあれり  
とましくそと對して

那しそと一湖もまうつる雪も  
森あつるそと一そと遠き跡  
念ものあつらふそと柑をやとん  
くすしの力らそと跡もあし  
適し乃一和そと西の月んて

正白

キ董

子史

我則

亀友

霞東

几董

大魯

東

魯

涌る新と油も舟も  
みしころや霧波の相撲ら  
夏いそとそと着くるうし  
貴人乃清る中た孕まつ  
そとは横川のそとあそん  
西とそと風とそとあつる雪つこ  
珠ぬけけ魁乃ねりそと  
茶のそと百日あそりほあれ  
系みのそと乃そとあつる  
そとそと佛そとあつる  
そとそとあつるの雪つと構つ

東

魯

東

魯

東

魯

東

董

東

董

東

垂せしとちひし日より侍所月  
あゝ似看りしゆふふき所  
流きく夕の小は秋あふくも  
隣こひしよよ雪隠乃登り  
兄才う園とちふる其ぬい  
三年一うりり一志乃蹇  
史記儀を携ちり酒とすむ  
ひけしとゆるむのまかり大  
小和申ふ一声考乃あやれ  
紺ふり管戸の極乃為新  
つねの月とくまらき言向ふ

董 東 董 魯 東 董 魯 東 董 魯 東 董 魯 東 董 魯

と余はふくくぬくも  
於うこの園もく人のあひらひ  
糸音乃侍り月の若うと  
芋喰つて了ものね弁と偏ゆ  
村のあうり乃返返り在る  
いくせして形せよ行基地  
あぬとウ似君の羽言  
解其角花えの危に竹聖す  
一斗百篇英雄のま

董 魯 東 董 魯 東 董 魯 東 董 魯 東 董 魯 東 董 魯

○





ぞうらふよとまねくはるやまを  
 けりまや電うけりて入る川  
 幸一乃葉の茂や松原のこぢか  
 かく初る夕方ふあけりて入る  
 赤のうらうらとた早はちきりか  
 けい合のうらうらとあしひのほ  
 船一舟をいそぐ百里天の川  
 鶯のと柄もくけよかし一羽  
 陣几焚香のつとまの待ももあ  
 夕制のくくかきしとやまの  
 つかうくつけきをかり  
 徳乃葉よ免えつり一書の異  
 無勝

その  
 志慶  
 自笑  
 鷺喬  
 亀々  
 左輔  
 白砧  
 大魯

ちさうかうまのりて早はれけり  
 子やとてのそりふそこのま向か  
 六りもきりたれりしん  
 口しきつて多角を振り  
 二子と修し  
 六りしんねのころやけり  
 うらふりけり踏△月のあま  
 車押しをせきくはりたかて  
 借もくし佩く太刀のま  
 餅穿つて酒のむくとわ  
 ぬらふちうき市入のむら  
 くらふおんてみえん石伝  
 角  
 定  
 キ  
 角  
 定  
 董  
 美角

二柳  
 几董  
 美角  
 キ董  
 定董  
 角  
 定  
 角









立秋

たつゆふきものふらむみりけす

雨ふるやみふねつ日くかり

うらひの君に冷ふ秋葉か

無邪のうらひうらひる養系

帯尾まゆ君にうらひる養系

あつれま麻まけくのもくこの

おのふとむく首りくさるる

たつゆふに引揚ねるもさふふか

當年一の望いんぬれくく乃と

あつれまゆまけくもくさるる

千代尼

斗拙

舞岡

斗陰

曉堂

也有

二柳

一氣

亀友

瘴落し翫くふはげし故心のか

ぬりけふよきふあものまゆゆか

きふふや踊り月のもく影

ひくくたの鳴りさるる踊りね

ねりさるる

ふに神まほぬ歌目の踊りね

うたのよかまのあし踊り

一青つ一闇さあちゆ踊り

踊りくく人のうしろねの周

三十とせ老のくくあやむら

千董

無腸

几董

蕪村

斗文

百池

李収

定雅

道立



中は花よももてふりて笑ふ木槿うさ  
貴んらり人んまらるや木槿垣  
やうれ其やうらうらうらうらうら  
本綴らう入る行ぬの口わらう申  
秋のを流しうらうらに口さうり  
うらうれやうらうらうらうら  
眉山

行楽道色

エミしう限りあもへ花火は  
花火ちうやうのむらうらうらうら  
ふ火をうらうらうらうらうら  
あ焚うらうらうらうらうら  
士川  
白堂  
キ董  
蕪村

利酒は酔うらうらうらうら  
又う酔あう新酒はうらうら  
入日らうと極の口や魚乃店  
舞れりうらうらうらうら  
喜水  
舊国

郊外

半唄はももてふりて笑ふ木槿  
張らうらうらうらうらうら  
細うらうらうらうらうら  
舟の風は夢うらうらうら  
舟はうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうら  
移竹  
桃喬  
し総  
夢太  
一鼠  
青蘿

ふふふふのふふふふのふふ  
ふふふふのふふふふのふふ  
山肆 雨谷

得老

ふふふふのふふふふのふふ  
樗良

ふふふふのふふふふのふふ  
太祇

ふふふふのふふふふのふふ  
我則

ふふふふのふふふふのふふ  
万容

ふふふふのふふふふのふふ

ふふふふのふふふふのふふ  
蕪村

ふふふふのふふふふのふふ  
無腸

ふふふふのふふふふのふふ  
道立

湖上眺望

ふふふふのふふふふのふふ  
几董

ふふふふのふふふふのふふ  
青雨

ふふふふのふふふふのふふ  
キ董

ふふふふのふふふふのふふ  
曉堂

ふふふふのふふふふのふふ  
泉阿

ふふふふのふふふふのふふ  
白居

ふふふふのふふふふのふふ  
士巧

ふふふふのふふふふのふふ  
守一

ふふふふのふふふふのふふ  
普文

ふふふふのふふふふのふふ  
弄我

二つとくしんくろくしんかきんく  
のりくしんくろくしんかきんく  
雨くしんかきんくろくしんか  
二とくしんかきんくろくしんか  
のりくしんくろくしんかきんく

田原

生佛

名取

野菊

月溪

儿董

縁中佳節

移竹

馬の脊乃るまよにまろき帯まの色  
をまろまよまろてまろけまろまろ  
まろまろまろまろまろまろまろ  
其中まろまろまろまろまろまろ  
佛壇に十日の菊乃るまろまろまろ

儿董

月居

蝶夢

鶯乃るまろまろのつくまろまろ  
けいまろまろまろまろまろまろ  
まろまろまろまろまろまろまろ

御爪

徳野

文皮

倣若社持衣

大魯

菊尹

鳴鳳

春蛙

正白

キ董

蕪村

まろのまろまろまろまろまろ  
まろまろまろまろまろまろまろ  
小来徳隣のまろまろまろまろ  
まろまろまろまろまろまろまろ  
くまろまろまろまろまろまろ  
まろまろまろまろまろまろまろ



秋聲

庭坂乃町中針研くまのね  
 層々一帯の雲をよみとやうふり  
 新さきや脊戸の芋坂佛の日  
 ありてい法入るる春さきか  
 稚子のまわしけらるるねまか  
 秋の戸に備へ神乞の敷る角  
 ぬもるやとらふあゆる床の色

松宗  
 鐵僧  
 士川  
 月居  
 我則  
 松宗

於金福寺興行

書とよむも寛く雨問の月  
 正白  
 松宗

涼の中乃勢平のまをらん  
 旅いりさるる世あそまうれ  
 遠電小納の候焼るまらひ  
 まら屋下りりおれりし  
 まらゆき衣敷をぬれり  
 ちやらんまらまら乃口  
 したりの里やも食のあねみ  
 誰う佛乃るまら入らる  
 車につましく秋の身を送り  
 終ひ乃聲よりる吹海舟

道立  
 白  
 几董  
 立  
 白  
 董  
 立  
 白  
 董  
 立  
 白  
 董  
 立  
 白



冬之部

蘭臺 雪のちりぬる  
 正白 雪のちりぬる  
 鍊僧 雪のちりぬる  
 几董 雪のちりぬる  
 我則 雪のちりぬる  
 几主 雪のちりぬる  
 宋阿 雪のちりぬる  
 霞夫 雪のちりぬる  
 呂波 雪のちりぬる  
 千代 雪のちりぬる

返景

一定雅 冬さぬまきこふた川の夕うし  
 几董 舟暮入度中れたや枯尾  
 事紅 芥のきほも入らぬ冬チヤの山  
 万成 一ひろろ辛ほとちや冬を獲へ  
 太浜 申新編のむれちや女新  
 岡鷲 姑乃鬼もこむねる上下ちりぬる  
 半捨 姑のちりと流ちくき大分施下

夜坐

無腸 四つよおろしきく小ねの尻中  
 蕪村 雪のちりぬる

紅圍の足につちてた路ゆふ  
 關ち乃ゆつりこまはゆりふ  
 牛羹のまふりよきふる  
 籠ふりき小袖の下けををうふ  
 孫子まてしよつやうま老女ゆふ  
 さらさらこころいふもよる  
 一籠

無心無佛

こがしむく乃付きさらりやしらり  
 ふらじやゆつりふはららら  
 風乃まきりふ暮る入日るふ  
 風やね一本あけい松の風  
 幾圭  
 百他  
 志慶  
 殘夢

こがしやゆつり石跡花  
 用や月も無り雪もやららら  
 樽良

が年やねまはるる老のま  
 松のまや春のちちる人乃白  
 むのちひしとまわや春のま青  
 理大やゆまは疎る加のま  
 炭ま川かまゆつまなくらゆ  
 鷺喬  
 百非  
 名波

中納言

一花よまはるるまはららら  
 子曳  
 東毛

まゝと書し乃大鏡よきまふくつゆ  
うつりてはな日いふの成りあり  
片向ひおのほる書おほひ

九朝  
守大  
瓢子

老懷

うろくやうくしりまの隠蟬  
其かきしおのよきおのきりし  
おのほるくくくくおのよき  
おのの月淡村の地くし沈き  
おのくし難くと蟬聲と振りて

二柳  
霞夫  
由翁  
一音  
大魯

後よ西はは  
楼上より今

日乃海舟乃るまうくつゆ  
くろくくくくくくくのぬ  
くろくくくくくくくくく  
胡乃園の書くくくくく  
牧とあくくくくくくくく  
おのくくくくくくくくく  
おのくくくくくくくくく  
おのくくくくくくくくく  
おのくくくくくくくくく

曉臺  
儿董  
我則  
蘇村  
一音  
則  
村  
臺  
音

ぐみろふとふとむかひてえ  
 力にわけて暮の暮秋らくく  
 如村の寺物の帛と地を引  
 籠おある草むき二人をり  
 罪もふかふか秋の日は  
 龍炭とつよまの世らる西の  
 法入因との一大幸きく  
 花のまほ横川の客の離れ  
 くとれ梅ある 香つ返る下  
 則 音 董 堂 村 則 音 董 則

芝草あるは風かきけり  
 非のせらりししり  
 香やせらりししり

冬夜興

手はたふる雪は夜路のふか  
 我ふとくもく人なりや  
 せしはく隠せり名をわめん  
 百はけらるるあなしくり  
 雛切ル敵まゝやうの月  
 裸をまやたれなりん月  
 下野  
 くとりてははしと入村の  
 舟守りしものまほのまほ  
 除くはらきふたりやと暮と星  
 則 董 良 董 業 櫓 几 董 櫓 良 業 野 董 甲 董 村 文 太 紙

脛の若ふ枝やん来乃雪  
と々とんく巻くつ心もくけゆき  
道立

あつちのけふまゆ

雪ふゆきまじりの照くたんまわ  
大雅堂

積るほら共菱やんれ小雪の  
美角

鮮き魚捨ゆかりゆきれ中  
几董

ゆりあつた兼けひまじり巻く  
弄我

冬の栴月うらうらにふれ  
曉臺

雪くちて雪のえ跡いつら  
一音

雪のくれさもひらうらゆきま  
蝶夢

遊童安寺

雪あつちやう白のふ入のち  
几董

ふき乃らうきく一ぬり  
布舟

破らりきまじりてけり  
蕪村

そけりやうてい氷るゆきれ  
一葉

切らちやんぬの根ふほら  
自笑

光らりり松影の中け  
三曉

用氷乃目まじりて氷る  
霞東

夜ひ

松明ほくこの音はし  
雷夫

屏の漆やぬらぬらに  
几董

皮剥く業もくさる  
松中





四はようそん 焚火や冬の月  
冬本を月骨籠り入る所  
石友 几董

那州

ぬししと師走日ぬやまのむ  
ふはよしゆる師走の埃うさ  
雪梅や雪ひらくくさるる  
雪梅や又覚行くまろくは  
うきくくう後残りなりふん  
あの子に酒ゆきくさるる  
酔を白師走の市ふん  
集馬 千董 蓼太 優才 百他 士喬 千董

ちうらも雲うしちかりし一は市  
正名

年四色うの白

禁裏とあふ

やうららふきにたりまはれ日のゆつ  
くのや梅と探りふたやうし  
袖女 田女

陰平

ふりしん光ゆき青の化粧うさ  
しん光光のそくくはれうさ  
几董 蕪村



諸君もふれ今一しりのみ孤衣小

芳馬

いもの匂のたまたま追悼にせしもの  
人入りやあしきかう是に十七句乃  
員と次一れの俳諧とあしけりて  
正當の日痛泣の及牌花々  
備へ懐蕪のこゝとあふものありし

十七年とて髪入るるし

几董

此書一れはなほいふとておもしろ  
りうりくしり清ゆくし  
葉州辰島の新とてさうなり

是の腐考とて賣ひのたまたま  
はわらふとておもしろし  
諸君もふれ今一しりのみ孤衣小  
後ろの世に過かるといふとて  
瀟佛 雲乃 周の  
れいしとておもしろし  
あつたれは入るるつ連中  
霧かふるるる未換るる  
るのせ清とておもしろし

まろやうしん 櫻相くも花乃の  
櫻相の儿も字なりまろし

安永丙申暮十月廿三日

授合

万容  
自誌



真ん中へうらりうらり

天半亭 几董

天明七丁末 夏上流

其一

<p>           飛揚 ちる日の時ころよき            遠狩ふ年の 雨降中けさるん            鳴くしとらうけ梅ちしつ            月をむまうけ物や酒買            竹乃は袖もあてくし            社堂の 新もつねと山あ            りしの飯 命にねし            ぬつはる 玉乃まき 芥<small>ユモク</small> </p>	<p>           曉 臺            几 董            月 溪            青 藿            董            臺            藿            溪            臺         </p>
---	--









其三

雨雲よりりもあそて夏乃月  
田中乃中乃中乃中乃中乃  
兼捲波芽の宿り基と行  
うううううう皆曇り夕  
法施の鳥衣乃深り中乃  
覆一乃一雷乃乃乃乃  
人宮乃乃乃乃乃乃乃乃  
娘乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
宵乃乃乃乃乃乃乃乃乃

月溪  
曉臺  
青蘿  
几董  
臺  
溪  
董  
蘿  
溪

新深船乃機き乃月  
待合の秋の古乃乃乃乃  
女乃乃乃の眼鏡乃乃乃  
灌頂乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
小邪乃乃乃乃乃乃乃乃  
鏡乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
死乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

臺  
蘿  
董  
臺  
溪  
董  
蘿  
臺  
董



小ねりてまにまにありらも  
 うつよちの市の芋麻肌きく  
 花子のまねま侍と葉ふく  
 こころしと板同一つくる古敷  
 踊子の波を移しこころ年  
 原ふてあふり先うーのふく  
 拙小運と抜ふつ太刀  
 玉猪の系入情糸に包み給  
 る鳴くしそつこころ春  
 きく残る火串のまわり照く  
 ありあきものふ會津根と類

月溪 薤 董 溪 薤 董 臺 薤 董 薤 臺 溪 董 薤 臺 董

情乃鏡こころつるさけつこ  
 津廟ゆるら身蒲公英のま  
 ねまーむー初あふぬの月  
 知ととれととととととと  
 ままあねんふのぬ女ととと  
 つけつととととととととと  
 國智つる百里ゆととととと  
 其乃白さのこころとととと  
 暮とつて童子の序るやほと  
 ろれあふりうとととととと  
 酒清しるうととととととと

溪 臺 董 薤 溪 臺 薤 董 薤 臺 董 薤 臺 董 薤 臺 董

身をばはく 既家本 花  
 氣をて 街タテの柴入り 中工と  
 月の杖渡り 月の影を  
 騎出の 芦毛の 駒の 森と 踏  
 穿入の 舞の ころも 玉河  
 五百の 征鞍 ころも 幸念佛  
 ころも 宋女 ころも 安も ころも  
 絶頂 寺と 扇の ころも 小きころも  
 鳥啼 空の ころも ころも  
 砂川の 流し 居りし ころも 一坐  
 竹の 枝あり 伽藍の ころも

花 臺 薙 臺 漢 董 薙 漢 臺 薙

九



脇起俳諧春

春泥合呂波

曲水巾のあはれ若くは  
 唐土使つり来し  
 のころ月山あふや  
 竹乃鼓とあし  
 藤舟漕ぐ男の髪も  
 三日の糠乃月  
 仏走乃し  
 鶯巢く  
 ちし

維駒  
 蕪村  
 田福  
 村豹  
 福  
 豹  
 村





頭

童 カムロ

齒

豁 ハナリ

村

夏三夜様とやらとて序の巻

約

二十年來洪水もな

福

ふりては正乃日あに老夫婦

村

遠よききりり、遠よ稚子唱

約

脇起俳諧夏

卯花や美儀ほくろ宇治乃里

山わくきひきも啼一色

維駒

操返一馬上の古約と歩編し

道立

名一因えさる酒くくきり

我則

群信乃蘇くあつ月乃名

几董

くく火島乃舟もなつり

執筆

回くく満の中乃ぬきり

駒

聞もほくろや一尾の耳

立

次乃同のまじ火既消る

則

裡と村んとふるさつり

董

一ト谷のまじ徳盛の子孫も

立

くく埃りもまじ

駒

年つさる人際廻りのほぐれ

董

微雨降くまじ腐るの

則

ふくくにまじる新

駒

木綿合羽をうろくおろく  
 月のおぼろげな光を  
 いく田舎のまりのま  
 海遠く重源うろく  
 やせ馬一匹一匹  
 夕月の光を  
 猪乃子行旅を  
 白川を

立 則 董 立 駒 立 駒 立 駒 立 董 則 駒 董 立 駒 則 董

餅米に急ぎや  
 産は人なり  
 脇張乃  
 今中五つ月の  
 晴うり  
 八倍へ  
 うらや  
 腕の  
 考

立 則 駒 董 立 駒 立 董 則 駒 董 立 駒 則 董

春之部

蓬萊乃山守つりせん老乃ま 蕪村

こころし松一葉のそらさうさ 移竹

親雲一糸もあつた難考か 大祇

周々ふのしけきまゆゆ大 几圭

古歌中馬帽子に捨よむのま 青峨

をる庭よりうらさ

あつた一葉もあつた 朔日寺 召波

うらさよの庭さうらりゆの夜 雨遠

よの庭さうらりゆの夜 雀英

人目さき名へ巨施に子日少 竹波

瑞枝巾梨葉乃五人あは 羅川

まじりぬの古葉ふはうて梅二種 蕪村

幽徑

時もたふふ荊の中乃浮梅少 几童

梅乃も馬の糞さたの菊 無腸

笑う子梅すれぬさの口ぬ少 春爾

百叶乃ささここの鼻し梅少 嵐山

まじりぬの中さうらりゆの 昭波

あつたも隠来のうらりゆの 維駒

あつたも隠下れ親子あがりたり 成文

あつたも隠下れ親子あがりたり 成文

旅中吟

貝濠乃町へ遠入のゆら月 道立

ささる白上酢心の口まや供月 春波

十丈花のうしろしよのねむる月 百地

まの月影裂けのくまをけりし 素郷

まゝいとしの

あふり錦さるとくちの内の内 赤里

庭下く音や余さるる岸の依 召波

岸追ふや松生すの松と 田福

西のまゝいとしのまの袖とく

荒とくしんるまのちかりりりり

まのまのく人信て海を渡る 蕪村

鶯の子乃浦とくしかりまのゆ 維駒

まのまのく養のくまあるまのく 几董

行旅

まの借さうりくにくまの子まのり 蓼太

紋馬たけしり来乃まのくまのり 卧央

うしろのまの追くる機をす 大魯

影りや那のまの月けくまのく 嘯山

岷嶽とくし

垣の芽乃純口ぶりまのれくま 竿秋

誰くやたを遠いこまのり 我剛

日うつりやうづへくもつけるるる  
さつらふもろくはふるもろく水  
隣山平山ねく中よとるうらうら  
九童

初午二句

さつり牛やきつね四塚乃鶴の辱  
燕村

あまや柳ハキナリ小豆や  
尾陽也

二月堂

くしうの河邊りきる皆乃き  
蝶屋

文佛乃柱く家やまの  
浪屋二柳

漢の子、風のなまふか  
凡中  
肯原

いっのちり月もももあつこ  
とま山  
維駒

漢舟くくく吹きうりも  
け  
浪屋  
舊国

遠國より句をよめし

菟波女乃懐きし  
そゆ乃  
女  
う丸

ま風の吹ゆし  
くは  
佳棠

夕くねまト  
か  
文皮

流木より  
きよ  
移竹

ここのし  
は  
太祇

新や  
は  
燕村

うけろ  
は  
塘雨

まろり  
は  
浙江

入口  
は  
湖岳

清苔のまやかたの海のふじりき 舞岡  
乾海苔やみろくしとほくか 川越 麥鴉  
双鳥の先師 鴨山のちりちり 麥鴉  
其枝ののん乃雪の角う那 社口

新思

ふひまの古々のらとや倦乃也 維駒  
ふとさきかた乃律やむのふ 湖柳  
あうひのく老木の秘や花あま 大石 士巧

桃山懐古

とみろせいのんといれと倦乃花 道立  
清き水にさる熱くはれ夕ふ 徳野

熱酒のやみ襟ヶ嶽のやのふ 几董  
柴乃たにあけくれくくくくく 几董  
くもくとつらとつらとつらとつら 几董  
くもくとつらとつらとつらとつら 几董

はだのほねものまやね乃花 蕪村  
上巳

たつらひれ梳すてありや歌の鼻 蕪村  
雪信う屏風もくくつ歌よつと 几董  
鮎乃妻み子の内侍 跡とつら 召波

雨意

白ゆい十方くれ乃らくくく 肯原  
ふ入れ川上きし花くくく 重厚

男とてむらじゆ中儀乃ま本の間 江戸 陽子  
栞五日四日を茶やちり山 仙臺 完山  
山にのく人美しや並さく 維駒

南部

花のあけし鹿や月さよれ心さく 自笑  
捧突にまことさねるえりや 太祇  
つまき客一日花乃を念ふ 青峨

四十日のく三里ふたすく

二日矢花くる命人事し 几董  
旅さるそ築地と畜く花様 伊 稚庵  
ほくほく せりいつら山り 依若 不木

笑のりりなもなう山り 江戸 一音  
魚つよやあやうく小役人 臥央  
く入流し坊を仕まのあむむか 大石 佳則  
ほくくも花さうあり 三形屋 百池  
誰固そ月夜もそのあふれ 鉄僧  
卒洞のまや切くむねまのま 正巴  
十九りサ一の 毛  
し 毛

笑うけ肩めくあや身城 几董  
序影借や巻してんや角力取 四木 毛條  
怒妻をさく 旅 ちり 自珍

そら乃るるうりぬれ花もつれ々り 雪居

養在深閨人未識

川よきと鏡うらむ心むらりか <sup>江戸</sup> 成美

まろわぬ酔中の詩うそぢりん 几董

ゆい花やゆもした花巻に抱くろ 蕪村

そ情ひくやあむと引くまろり 召彼

花下に孫白くそ春と情む

紙や鑑や舞うそ尾花と捻り 蕪村

夏之部

ころもく一先居るんうそ 移竹

酒はくの膝登るわ更衣 <sup>尾陽</sup> 暁臺

白うねね情ふ背中ふゆまん 蓼太

まを情むん乃わうそ衣 <sup>いせ</sup> 栲良

紀行まふ子の旅ふ衣 百池

うつろくそ海むねん

古井の月今に流れり子規 肯原

あひひまふくふか花杜鵑 太祇

ゆきき通夜の枕の扇か 青峩

ふやうそらそま布糸の子規 維野



曉乃 撫女々吐血わきま 召波

あふらぬあひきり

忠念のね女をてしあきま 蕪村

けしきに啼しを待たぬの糸 几董

よつのはねを悔くまきり 大石 士川

給看くふりきり 僕うさ 菱湖

待香のりまに心まや猶給 定雅

経衣やいぬ路くるまきり拍子 蕪村

きりりや鏡因けり又まきり 之兮

歌はる

経衣やいぬ路の白ひの胸うれ 几董

又車十一

寐いそまの悔とほりし 咄う那 銀獅

一和二和坂をうりしきみち 白 春武

流しや悔子透くまきり 白 呂波

橋や悔くまきり 白 老二人 田福

坂屋とあき 白 了翁う那 大魯

提てり牡丹 白 ちんねん 白 春坡

懐舊

牡丹折し 白 又う怒と 白 ちんねん 白 大魯

廣る 白 乃ほ 白 ちんねん 白 天乃 白 一 白 几董

鳥散 幾董

うた 白 ちんねん 白 ちんねん 白 ちんねん 白 幾董

杉扇の葉に憐れぬや 燕子花 嵐山  
 蛇尾を驚く崖乃 ころの葉が 維駒  
 嵐山松の四月とありに 松島  
 乃 芝にありの 冬乃 轍うり 隨古  
 ころの 却る 折也 長乃 州 江戸  
 ゆりの 心も ぬら した 葦うり 成文  
 ころの ころの 村を 掘り 田うり 几圭  
 板を乃 ころの ころの ころの 几圭  
 小舟とや かり 苗うり ころの 几圭  
 行 戸を ころの ころの ころの 田植舟 曉臺  
 芥子 花や 腕の 衣乃 ころの ころの 也好

ころの ころの ころの ころの 後 瀬水 寄節  
 那 ころの ころの ころの ころの 来之  
 夕 ころの ころの ころの ころの 楚秋  
 夏 花乃 ころの ころの ころの 几董  
 方丈石  
 おころの ころの ころの ころの 梶 牛 蝶夢  
 ころの ころの ころの ころの 太紙  
 梶 牛 君うり ころの ころの 結城 雁宍  
 慈 痛に ころの ころの ころの 梶 牛 葦村  
 洛 京 昔 ころの ころの ころの ころの  
 昔 ころの ころの ころの ころの ころの 換 麦 小

ちりきりし園のさけや長経  
雀英  
夏の下やあま大き成にたり  
旨原

有感

生きてまふひよのまを初若子  
几董  
華一海うりふくさるを水  
維駒  
岸や梅と新スもふさそつ  
吞獅  
秋あろくしうさるそ田桂か  
雷丈  
ふ乙女や先ひふかりと庭のた  
江戸  
超波

郊外

都一途いづもなれたる田中  
雁宕  
物同へい出てまふつらむきりふ  
如瑟

名備めあつしつらふむねきか  
湖陸  
ろ杉中女のてらる飯乃菜  
太祇  
ろ梅や眉あつらるる美人ふ  
蕪村

湘雨り青カワレる巴  
蕪村

青うつし色とくもふふ美梅か  
几董  
夏の月半陽乃岐のふく衣  
召波  
を泳ぐ兵舟や夏つ月  
蕪村  
さすくわ中ニ線くらるすまめ  
大魯  
らるるわやあをふらうのくも舟  
竿秋  
通宵のあつしつらふ



相対本の栞ふらりし一平の筆  
蓮り一維小舟借るるりも又  
芭蕉のりは此のこふせ蓮乃雨  
と一紙よふ乃りもを借日あり  
狗舟り一平傳をせて蓮らんか

讀李斯傳

剛ふる肩も寄ら入籠り此  
都ひふる神上ゆりよ園か

袖添二句

汗入るる身を佛作とる存か  
床涼豈着連歌のむらり

是岩

如菊

杉月

召波

維駒

几董

熊三

我則

燕村

葛水巾願り一むの青きと  
首も巾りうらふををを丸る

道立

几董

桐岡の筆  
維明の筆の行り  
筆美とむてをり

筆心乃る庵もをり

部

夏にこれいふにけし

壹石

筆の筆野り

こころふふふふふ

五七



新病を絶ふしとせむるなり  
 沈香にて懼ふ井 鴨  
 新ひあつ女ころのひさしに  
 廊乃乃月日とてふれあか  
 いさしひの程もあまるあか  
 赤くしひそとて哭く翁丸  
 あましくあ井乃皮着背負ひ  
 うらむあひとてひそつれふふ  
 袖のうま酒出してあき  
 寺乃路目のこまふ背折  
 いらあひひの足枝の枝とて

鴨 董 鴨 董 鴨 董 鴨 董 鴨 董

とやうき居り果しと市  
 驚くうこの路をあらつふ  
 官位とてとれねとて  
 別殿とて乃林の後とて  
 きらとてとてとてとて

鴨 董 鴨 董

其二

白鳥さふあまうしひと  
 千ま乃とてれあまあふ  
 ひとりのもあふるあふ  
 家とてりああとてたり

維鴨 百池 鐵僧





見えしきぬれし色小風名表  
 清良君乃くまふくまふくまふ  
 暮るり白りうくくゆるりの日  
 横座り付し牛と遊りて  
 天王乃くまふくまふくまふ  
 女乃くまふくまふくまふ  
 入りのくまふくまふくまふ  
 花守乃くまふくまふくまふ  
 足はくまふくまふくまふ

池 僧 駒 池 駒 僧 池 駒 僧 池

秋之部

新よ今秋梧梗の末よりうけむ  
 今月のうきさよとこそ今秋の秋  
 水屋よりも磯う後やうけ乃秋  
 新魚や早しとれをあらう向  
 新屋根をともむてゆじ天門  
 新子けし後よりくまふくまふ

青我 花義 召波 千代尾 起波 道立

病起

懶くふ思し苦く今秋の秋  
 角力夫の力をひそめて和鬼迎  
 今二日とくまふくまふくまふ

燕村 也好 一差

彩ぬ切巻乃後了あよの所  
傾瀉了腕えせぐり相撲糸  
几董  
松化

市中

躑子カタるらねてねくふ  
大魯

うひしあしあぬにまき踏か  
召波

細腰乃法師下ろふ踊うふ  
蕪村

還るより八千代御所一たて  
蕪園

笑てふれい墓のむらり行ま乃を  
釜淵

よみかきしあかすかて老にたり  
湖行

由井乃侯つゝり

おきか信やうつふ候乃料  
木極

沢屋川ふみふ信をこころり  
田梅

後了あよの田ふあふ為うふ  
二貞

そり口の御所しはらるき面夏の笠  
蕪村

又陣陣の井ふ武花陣くわり

そらちやうしはれ院あにあそ  
雁宕

厂明中律屋し乃うはしは  
自笑

記読しも下りれねとけ雁孤ッ  
蕪村

旅中

川幸や馬や入るる乃音  
太福

勢ころころるの先中馬の尾  
几董

ころたてこ丹岐の船乃片舟か  
維駒



梅の葉のつらさのりしりか  
月夜やふもよほのきみ  
拾ひあけし肩にささむる徳小  
喰う子孫よこしにさすのり  
さすのりしりか  
女  
来雨  
百池

雨中九日病起

銭くし下結りきよにのりか  
鼻くちのぬのさかやうの菊  
白菊やこつふのうつり  
茄子りりりりりりりりりり  
柿あまきき竹割ひきりりり  
鏡僧  
几圭  
江涯  
高砂  
布舟  
佳棠

ふくくしてみよふにちか  
市小あよ大よ世のれや秋の風  
夏とちあし遠れりるふ静ふ  
也  
鹿ト  
維野

遊仁和寺

君しりやふのさか  
掃音もせめて淋し  
白らき通ふもあま  
ふらあまタリ  
あふらふらあま  
さ  
さ  
暁臺  
瓦全  
橋仙  
鳥西  
嵐山  
蓼太  
几董

探歌をゆて

撰出して淋しき色やも傍柑

鼓舌

酒ふたり餅に本橋の穂並小

左梅 吳逸

かろしと外田よあふる鳴子うさ

昔蓮下 松宗

明すのよとたききの西戸つらうむ

石波

稚子の二人見しよ夜まうか

旨原

雨や乃日<sup>和</sup>けりみまふる夜まうか

大魯

國雨の襷うよ合とたきか

魚官

たるときと小冠若舟りわだ

蕪村

蕪使と如信巻うとらて

笑の癖うとらてきしし九月慟

曉臺

その秋も子ゆ子儀後中ふ

卧央

四五ふ乃きわ歳終と骨乃秋

湖岳

ゆ秋や蹴後<sup>か</sup>の場とまな本系

養水

稚業のまられしやあよ乃まね

維駒

ぬくりうらる

本骨流りしきとらん秋ひより

蕪村

九月の須戸のうららてし

ころしとまてしころしや須戸の秋

几董

たちになき會や九月も

雁名

岡居

小網買しよの夜とゆ教あうら

几董

冬之部

雪乃一のひかりきや夕一これ  
初一これゆきふりてふりり  
とつるも儒一淋き羽絨うき  
ともひもひもひもひもひも  
さくさくや雨一ゆきやう峰  
几董

其簷

おろややくやう一臨乃糸  
傘一おきあつちう十石小  
ふきぬのひにふりける十石小  
門前のあひまをかる十石小  
月居

太祇

千代左

琴堂

帰尊

几董

召岐

素文

蓼太

月居

鹿登一一人のうしきをくもる  
道立

旅とよるとそけ思事や冬々  
正巴

冬葉の光風乃眼と村  
蕪村

負郭

四つ谷う馬糞のつく枯所  
青峩

又或日扇きひゆかれせうふ  
曉堂

冬乃れやふ乃家法の葦と刈  
蕪村

冬乃美うふもきも先とるれり  
雪屋

冬乃も中は海者うらう一女れ  
鍊僧

冬乃やふもきうらう冬乃  
維駒

水居名出

夕川ふらふらんもの歌へ鳥うふ  
 降りのにおゆるその日よりか  
 こひしやほのしるもさうし  
 石落のこちこちうめくもまがゆ  
 小坂ぬるそり滝わてあけれを  
 一雫まじらうと息巻のけしきか  
 初まゆふと硫と振る 幸  
 信治る

几董 渡牛 社奥 熊三 鶴汀 也好 秋来

懔夢 白石 伊丹 東瓦

四五羽立てしころをりきそ河の傍 道立  
 周とびく沖のらりやふつハ星 几董  
 いらららららめき川細き 寶浦園 無腸  
 青の万ハ風もあつて古 蒲園 百池  
 うつと大とや下にもう清うめ 我則  
 接るもも一葉ふけり 桐大桶 心頭  
 尾にあかりし時

嬰とゆふふれ隙つて 巨徒か 千代尼  
 山むらり里とやしてこころり家 風律  
 冬々の口やとけつて氷る忘れも 一嵐  
 凍やしぬく結ひつる存乃る 傍喬

廣島 浪花 伏水





羽とあふぬふと鳥のねよとふれおき 斗文

古五

くろ仙子、旅あつちや、宵月夜 蕪村

さき月にてちひり名乃響古小 子曳

ちかむるあけ蒲團をさきふさふさ 大名 守明

南宗の負しよきやとく本とら 月溪

口くくして丘上りたりとさこころ 丹波 仙魯

けりあがり衣信ねあそらとら 舊国

つきんむしきとふりぬ 砕 鼓 宮津 路景

縁人へ後むしひかりけとさき 佳棠

ちかしてまて西へとかりとら抑 佳剛

五車 二六八

ぶのさやあやあつちる 細代 幸 士川

中一

ゆきとせきひくくちりらあは 通助

あやちえ乃あひしやとら 忘 名岐

年日これ肯念者とら流うふ 青我

膳八や和尚濁くおひまきり 雁宕

とらしや二人の親乃謀こむり 佐州 米屋

りらちや又信ふあふとら 拂 維駒

争つたりりあふ年とて 燭牛 文梁

判ころのいさむらぬのむらち あひ 太禰

ゆく年の女すあはちや ち ち乃 甚村

除夜遊青樓

まうくんやりてう豆と奪のり  
あつらき月の梅や一人三十日  
几董 移竹

臨起俳諧冬

みくもも五車のみをけり  
ひよりきわたり鏡うつ月  
部か何葉やらん燈  
流乃千花のうらうら  
枝代于一れよとさくら  
掬乃る年り先口と利ク  
維駒 鏡僧 卧天 蕪村 百池

上巻 二十九

新毫のまもほつたさくら  
うらうらきくももの細  
裂やまふのうらな終  
まど奪のりおぼれけき  
らうしと雪降年の伏ん  
小芥結海く馬鳴うん  
ふししも權とあはさるる  
うらうら酒を胸の病は  
小あひあつのつめは  
あまあまひれちさく  
みちあふるさ車のみふのり  
也好 春坡 正巴 之兮 道立 我則 自笑 佳棠 湖柳 湖岳 几董



拾遺居方の旧蔵書ありてとありて其の由の  
初及よ句とてありて其の良材金石とありて一集  
と信書せんとなりて予とて其の書を採て其の  
後力と信書採成とて先人の輝前に信とて其の  
功徳見佛開法の強強ありて一且太紙粘竹嵩山  
乃信とて其の教軍の古く再集中ふとありて  
乃月花鳥乃其のを祝詞とて其の是目地  
平等乃追善とて其のを祝詞とて其の是目地

春夜樓晉明書

天明三年十一月

善村七部集後編 春夜樓晋明著 近刻

文化六年己巳正月發行

中五賣坊河入所

字一多下所

寺中二多下所

三條寺所

河南儀

揚屋治

皇都

書肆

